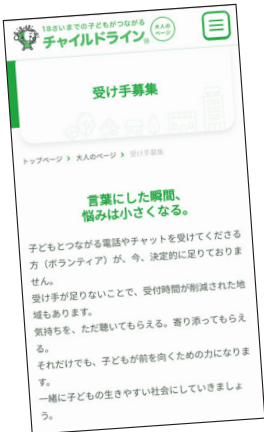


チャイルドライン
支援センター

活動報告

受け手ボランティア募集

あなたもチャイルドラインの受け手になりませんか？
子どもは「自分で解決していく力」「明日に向かう力」を秘めています。その力を発揮するためには、子どもをありのままに受けとめるおとなの存在が必要です。



あなたも
子どもの声を
聴きませんか

受け手募集

チャイルドラインとは
チャイルドラインの子どもも
受け手とは…
受け手に
なるには…
受け手を
支える仕組み

応募はこちら

チャイルドラインは子どもの権利擁護の観点から、18歳までの子どもが安心して相談できる場所です。子どもは自分で解決していく力「明日に向かう力」を秘めています。その力を発揮するためには、子どもをありのままに受けとめるおとなの存在が必要です。

受け手は電話・チャットを介して子どもとつながる人です。子どもに寄り添い、気持ちを聴いてもらえます。受け手が足りないことで、受付時間が削減された地域もあります。気持ちを、ただ聞いてもらえる、寄り添ってもらえる。それだけでも、子どもが前を向くための力になります。一緒に子どもの生きやすい社会にしていきたいです。

受け手は電話・チャットをかけてきた子ども一人ひとりの声に耳を傾け、気持ちを受けとめ、寄り添います。もやもやとした気持ちを整理し、悩みを乗り越えていくためにできることを一緒に考えます。そんな受け手をあなたもめざしてみませんか？詳しくはホームページをご覧ください。

チャイルドライン支援センター受け手募集
<https://childline.or.jp/supporter/volunteer/>



thank
you

ご支援・ご協力 ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会をめざし活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよろしくお願いいたします。

●2024年10月～2025年2月のご寄付総額
6,475,229円

ゆうちょ
銀行

振替口座 00120-5-425245
(019支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp/>)

Yahoo!
ネット
募金

募金サイト
<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5452001>



※Yahoo!ネット募金とは、さまざまな社会課題の解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付のポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付に対応しています。

フリーダイヤル、ネットでんわ、 オンラインチャット、つぶやく 実績報告



●フリーダイヤル ※NTTコミュニケーションズトラフィック調査ツールより

2024年10月～2025年2月	当期	前年同期比
発信数	117,235件	-21,678件
着信数	68,657件	+2,935件
着信率	58.7%	+11.4ポイント
平均通話時間	4分19秒	-3秒
総通話時間	4,923時間	-492時間

●ネットでんわ ※チャイルドラインアプリのシステムから自動集計

2024年10月～2025年2月	当期	前年同期比
発信数	995件	+171件
着信数	876件	+160件
着信率	87.0%	+2.1ポイント
平均通話時間	1.9分	-24秒
総通話時間	23.4時間	+4.2時間

●オンラインチャット ※チャットシステムAI.BISのレポート解析結果およびチャイルドラインデータベースより

2024年10月～2025年2月	当期	前年同期比
訪問人数	83,090件	+26,567件
書込件数	22,438件	+6,714件
対応件数	7,633件	+1,768件
対応率	34.1%	-3.3ポイント
平均対応時間	39分12秒	-2分40秒
対応時間	4,987時間	+882.7時間

●つぶやく

2024年10月～2025年2月	当期	前年同期比
投稿件数	7,623件	-999件

編集後記

◆たくさんの方の応援のもと活動できてきたことを再認識した1年でした。新年度が始まり、気持ちを新たに子どもに必要なとされるチャイルドラインとしてわたしたちがしなければならぬこと、できることを考えていきたいと思います。(S.M)

特定非営利活動法人(認定NPO)
チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol. 150



18さいまでの子どもがつながる
チャイルドライン。

巻頭言

子どもの命の危機が チャイルドラインをつくった

1994年11月、愛知県西尾市で大河内清輝さん(中学2年生)が、遺書を残して自殺した。壮絶ないじめは、世間を震撼させた。遡って1986年東京都中野区の中学校で教師4名を含む同級生が鹿川裕史さんのお葬式ごっこを教室で行い、二か月後、遠く離れた岩手県の盛岡で自殺した。「このままじゃ生きジゴクになっちゃうよ」という遺書が残されていた。

チャイルドラインの成り立ちは、東京都世田谷での市民活動からだ。1996年に開催された「いじめ問題を考える」シンポジウムをきっかけに、現世田谷区長の保坂展人さんの紹介によりチャイルドラインの存在を知り、イギリスに視察に行ったのである。特筆すべきことは市民と文部大臣らも同行し、ともに視察していることである。そして、1997年国会内にチャイルドライン設立推進議員連盟(後にチャイルドライン支援議員連盟)が超党派で生まれた。

1999年には牟田悌三さん(俳優)と清川輝基さん(NHK長野支局長他)の2名を代表とし、子どもの声を聴く大人を増やし、心の居場所づくりを使命とし、チャイルドライン支援センターを設立した。

牟田さんは「チャイルドラインで、コミュニケーションをとる練習をしてほしい」と常々話し、清川さんは「子どもたちにぬくもりを感じてほしい」と思いを語り、活動を全国に広げていった。

2006年、またしてもいじめ問題が社会問題化した。



さいたまチャイルドライン代表理事
チャイルドライン支援センター元代表理事

太田 久美さん

福岡の筑前町で中学2年生の子が自殺したが、1年生当時の担任教諭から「偽善者」と言われ、あだ名の原因を作ったことなどが報道された。鹿川さんもそうであったが大人が加担するいじめは実際にあり、悪質極まりない。同年、北海道滝川市において小学6年生の子どもが7通の遺書を残して自殺を図り、年をまたぎ死亡している。

この2件のいじめ事件は社会問題化し、文部科学省のいじめの定義が変更され、各県に24時間対応の相談電話が開設されることとなった。

当時チャイルドラインは、より子どもがアクセスしやすい相談機関になるため、全国统一番号・フリーダイヤル化を目指していた。保坂展人さんの協力のもと、超党派の代議士5名の協力を得て実現したのが現在も続くフリーダイヤルで、2009年から本格運用した。当時フリーダイヤルに反対の団体もあったが、「0120-99-7777」は全国の団体の投票により選ばれ購入した番号だ。

その後、統一番号は災害時の子どもサポートに大きな力を発揮することになる。2011年3月11日の東日本大震災では現地のチャイルドラインが稼働できなくても、あるいは県内に開設機関がなくても、子どもたちのSOSを受け続けることができた。全国が連携することでのダイナミズムである。

現在、こども基本法が施行され「子どもたちの聴かれる権利」が言われるようになった。これは子どもを権利の主体と捉えた言い方で、前進である。子どもが安心して安全な社会で育つことを願うのであれば、子どもの声の中にこそ答えがある。25年間でインプットされた子どもの声は、決してチャイルドラインの私物にしてはいけない。有効な手段によりアウトプットし、子どもたちの生きやすさにつなげていくことこそが、受けた者の責務であり責任だと思われる。



発行日 : 2025年4月30日
発行 : 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)
〒162-0808 東京都新宿区天神町14神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501
URL: <https://www.childline.or.jp/> E-mail: info@childline.or.jp



チャイルドライン

25周年

記念講演会

子どもの声が

社会を

変えていく

聴き続けて

25年

チャイルドラインが日本で活動をはじめて25年が経過しました。この間、多くの先達の尽力のもとでチャイルドラインが継続できたことに深く感謝し、記念講演会を実施しました。たくさんの方にご参加いただき、チャイルドラインの原点を確認しながら、これからのチャイルドラインのあり方と子どものウェルビーイングな社会について考える時間となりました。



チャイルドライン

これまでの

あゆみ

1996年～1997年

イギリスのチャイルドラインを訪問
(市民団体職員と国会議員によるチーム)

1997年11月

チャイルドライン設立推進議員連盟設立
(初代会長＝小杉隆元文部大臣)

1998年2月

日本で初めてのチャイルドラインの実施
(せたがやチャイルドライン／24時間 2週間)

1999年1月

チャイルドライン支援センター設立
(初代代表理事＝牟田悌三・清川輝基)

2004年

チャイルドライン支援議員連盟に改組
(現会長＝野田聖子衆議院議員)

2009年

全国統一フリーダイヤル運用開始

2016年

オンラインチャット相談開始

ロゴマークが一般募集により
決定したのは2008年春！





代表挨拶

社会が困難な状況に直面している中で、子どもの話を聴くことの重要性が再認識されていることを感じています。悩みを相談することに躊躇する子どもが多い状況を受け、昨年（2024年）11月こども家庭庁が「悩み相談の環境構築プロジェクトチーム」を発足させ、昨年末には「チャイルドラインは子どもの声をどのように聴き、子どもとどのように向き合っているのか」という意見交換の場をいただきました。また昨年度は「学校における子どもの聴かれる権利の保障」などについて、チャイルドラインからも積極的に子ども施策への提言をさせていただいています。

設立25周年の節目にあたり、野田会長はじめとした議員連盟のみならず、長年にわたりご支援してくださっている企業のみならずには深く感謝の意を表したいと思います。官民連携して社会を変えていくときにチャイルドラインが絵本の「スイミー」のように「目」の役割を果たしていきたいと思っています。

チャイルドラインの強みは、全国40都道府県70の地域に根差した活動であることです。地域のひとつひとつの団体が大きな財産であり、一緒に活動する仲間ひとりひとりとその家族のみなさんへの感謝もこの機会にお伝えしたいと思います。そして、これからもともに、どう子どもに向き合い、どう社会を作っていくのか、考えていけたらと思います。



チャイルドライン
支援センター代表理事

平井
貴美子

祝辞

チャイルドラインが25年間活動を続けられたことに、心から敬意と愛を届けたいと思います。国会議員は法律を作り、社会を変えることを担っています。法律を作ると物事は進みます。私は、これまでに全国の女性や子ども支援の団体との関わりを持ち、子どもに関する法律を策定したり改正することにも関わってきました。少子化や子どもの自死が問題となる中、民間との連携の重要性を指摘し、「子ども専一機関」であるこども家庭庁の設立にも取り組んできました。

子どもへの政策はこれまで「サイドメニュー」といった扱いで、日本の国会がやるべきは「経済・外交・安保」だと言われてきましたが、将来、それらを担うのは、子どもたちです。主役を外さずに議論をしていくことで未来は見えます。当事者、主体者の思いは大切です。こども家庭庁に対して、自分たちの思いを伝えられるチャンスがある今、チャイルドラインとして、どのような法律が必要かを提案していただけたらと思います。

これからもカウンターパートとしてともに歩み、子どもを軸にした平和なあたたかい日本を作っていきましょう。



チャイルドライン
支援議員連盟会長
(衆議院議員)

野田聖子
さん

講演

私自身が「問題提起児」として学校からはじき出された経験が子ども時代にあります。教育ジャーナリストとなった1980年代は学校が荒れた時期で、子どもたちはなぜ荒れているのか、社会に何が言いたいのか、子どもに取材しました。世田谷の取り組みとして、留守番電話にメッセージを残してもらい、子どもの声を聴くという取り組みもやりました。もっと多くの子どもたちが「人」と対話できるようするためにどうしたらいいか考えていたときに、イギリスでの電話相談を知りました。日本にもこれが必要であると思い、24時間子ども相談ダイヤルの設置について与党合意を取り付け、イギリス視察を実現させました。その後チャイルドライン設立支援議員連盟が発足し、日本のチャイルドラインが始まりました。

25年経ち、チャイルドラインは歴史となりましたが、自然発生したわけではなく、当時の国会議員や世田谷の関係者たちの「子どもたちの悲鳴を放置しない」「なんとか受けとめたい」「解決につなげたい」という思いが原点となっているのです。



世田谷区長
保坂展人
さん

国の方針として「生涯学習」が示された1987年、私は文部省の官僚でした。ボランティア活動も生涯教育のひとつ、「学び」の場です。

当時、学校の荒れ、学校の詰め込み教育、「落ちこぼれ」という課題を国会議員が臨時教育審議会でも議論するなどがありました。その後の広島県教育長時代には、子どもからのFAXでの自死予告が入る出来事が起きました。子どもが特定できず、職員や学校の先生、保護者に、全県の子どもの安否確認をお願いしたことがありました。最終確認ができたのは夜中の3時。翌朝は「大人が自分たちに関心をもってくれた」ということで、子どもたちの顔がいつもより明るかったと聞きました。その後、文部省に戻り、小杉隆大臣もと、保坂さんとも関わりながら子どもの困りに寄り添えることが必要であると考え、保坂さんは民間の立場で、私は行政の立場で取り組み、それがチャイルドライン設立へとつながっていったのです。



元文部官僚
寺脇 研
さん

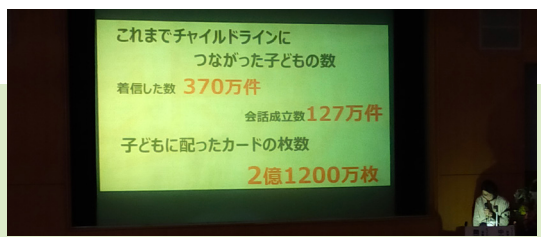
チャイルドライン支援センター
設立総会（1999年1月）



チャイルドライン開設のための
セミナー（1999年7月）
(上段左＝牟田悌三さん、右＝清川輝基さん、
下段左＝保坂展人さん、
右＝澤畑勉さん)



歴代代表の紹介（左より太田久美さん、松江比佐子さん、梅澤元彦さん、小林純子さん）



スライド「チャイルドラインの25年の歩み」



司会＝伊勢志穂
(支援センター理事)



パネルディスカッション「チャイルドラインの原点と展望」
パネリスト＝保坂展人さん、寺脇研さん、平井貴美子、ファシリテーター＝福本佳之（チャイルドライン支援センター常務理事）

【日時】 2025年1月18日（土）
【会場】 国立オリンピック記念
青少年総合センター
【参加】 126名
【主催】 特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター